

サポーターと世界のためにTake Action!

広島をホームグラウンドとするJリーグの「サンフレッチェ広島」。平和都市・広島を代表して、「ボール一つでできる」サッカーを通じた国際協力にも積極的に取り組む。そのきっかけとなったのが「なんとかなきゃ!プロジェクト」*への参加。2010年からJICA中国と連携し、年1回スタジアムにJICAの研修員を招き、アフリカンダンスや南米のサルサなどを披露している。「サポーターの皆さんが国際協力の興味を持つきっかけになれば」と事業本部の佐々木温さん。最初の目的はサッカー観戦でも、スタジアムに入っしまえば心は一つ。研修員たちのパフォーマンスに大盛り上がりだ。

また、選手やスタッフから「世界のために、もっと何かできることはないか」との声に応え、昨年には広島の青年海外協力隊を通じて、リサイクルのユニフォームを南米パラグアイに贈った。パラグアイは、日本がFIFAワールドカップ2010の決勝トーナメントで惜敗した国。何かの縁を感じずにはいられなかったという。「いつかサンフレッチェのユニフォームを着た子どもたちがプロになり、日本の選手と対戦してくれたら」と佐々木さんは夢を語る。サンフレッチェ広島が起点となり、Jリーグにも新しい国際協力の風が吹き始めている。

*途上国の現状について知り、一人一人ができる国際協力を推進していく市民参加型プロジェクト。実行委員会は、NPO法人国際協力NGOセンター(JANIC)、JICA、国連開発計画(UNDP)。



試合前、ホームスタジアムでは民族音楽に合わせてJICA研修員たちがダンスを披露。外のブースでは国の現状や青年海外協力隊の活動などを紹介



サンフレッチェ広島のユニフォームに身を包んだパラグアイの子どもたち



NPO ROCINANTES
>> SUDAN

紛争、震災の悲しみを乗り越え、人々の笑顔があふれた運動会だった



宮城県名取市で行われた運動会には、南北スーダンから22人が参加。一生忘れられない一日となった

NPO法人ロシナンテス

合同運動会で復興を目指す心をはぐくむ

アフリカ東部、スーダンで医療分野を中心とした国際協力に取り組むNPO法人ロシナンテス。代表の川原尚行さんは2011年3月11日、一時帰国の際に東日本大震災に見舞われた。「研修のためにスーダン医師を連れて帰国中でしたが、医師として何かせざるにいらませんでした」。震災3日後から、日本のスタッフやボランティアを動員し、宮城県名取市閑上地区を中心に巡回診療やがれきの撤去作業などに取り組んできた。

このような活動を通じて、津波の恐怖を経験した被災地の人々と、南北に分断されたスーダンの子どもたちの間には共有できる部分がたくさんあると感じたロシナンテスのスタッフたち。被災地に元気を取り戻したいと、震災から4か月後の7月、南北スーダンの子どもたち22人を被災地に招いた。そこで企画したことのひとつが、東北・南北スーダン合同の「大運動会」だ。南北スーダンと名取市の子どもたちが赤組と白組に分かれ、協力し合い、楽しみながら競い合った一日。南北スーダンチームから民族舞踊や歌がプレゼントされる一幕もあった。最後には全員で輪になって「閑上大漁節」を踊り、両国の子どもたちにも、運動会を見学に来れた地域の人たちにも、笑顔があふれていた。「今回の交流をきっかけに彼らの間に“つながり”が生まれ、励まし合いながら成長して欲しい」。そして数年後、数十年後の再会を夢見て。ロシナンテスは「天の川プロジェクト」と称されたこの取り組みをこれからも続けていくつもりだ。



スポーツを通じて つなげる

スポーツを通じて生まれる世界とのつながり。世界各地の国際協力の現場では、日本の「スポーツマン」たちがより良い社会の実現に向けて行動している。

南アフリカで開催されたFIFAワールドカップ2010。19回目にして初めてアフリカ大陸が舞台となったこの大会を機に、アフリカを身近に感じた日本人も少なくないはずだ。

約1か月にわたる熱戦は、日本はもちろん、世界各地で盛り上がりを見た。しかし、現地の状況はどうかと言えば、サッカーの人気は高いものの、テレビの普及率は低く、電気が通っていない地域もある。これまで母国のチームの試合さえ見ることができない人が多くいるという現実があった。

そこで立ち上がったのが、FIFAオフィシャルパートナーでもあるソニー株式会社。出場国であるガーナとカメルーンで、ソニーの大型映像装置を使ってパブリックビューイングを計画したのだ。「ワールドカップの感動を味わってもらいたい。また、これだけ多くの人が集まる機会を使って、現地の人々のためにさらに何かできればと思いました」とCSR部の富田秀実総括部長。そこでガーナではJICAと連携して、試合の前後やハーフタイムを利用してアフリカの深刻な課題の一つであるHIV/エイズに関する啓発活動を実施。青年海外協力隊員の協力も得て行った正しい知識を伝える劇やクイズ、カウンセリング、HIV/エイズ検査は、大好評だった。

FIFAワールドカップ2010におけるソニーの一連の社会貢献の取り組み「Dream Goal 2010」は、イギリスのブレア元首相が提唱した「ビヨンド・スポーツ賞」の「Corporation of the Year」を受賞。ソニーの得意分野を生かしたパブリックビューイングとミレニアム開発目標(MDGs)への貢献を融合させたことによって、スポーツを“超えた”効果を生み出した点が受賞理由の一つとして評価されている。ソニー独自の国際協力が、これから世界各地に広まっていくことを期待したい。



野外の大きな画面でガーナ選手の活躍を見守る人々。機材の準備と設営にはソニーのスタッフが汗を流した



試合の合間に行われたHIV/エイズの啓発活動

